

新医学系指针对応「情報公開文書」改訂フォーム

## 研究協力のお願い

昭和大学病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

頭頸部癌術後における陰圧閉鎖療法症例（NPWT）の検討	
<p><b>1. 研究の対象および研究対象期間</b></p> <p>2014年10月～2017年11月までに当センターで治療した頭頸部がん患者さんで術後NPWTを使用した方</p>	
<p><b>2. 研究目的・方法</b></p> <p>陰圧閉鎖療法（Negative pressure wound therapy：以下NPWT）は創傷表面を密閉し湿潤環境を保った状態で内部を持続吸引することで創傷治癒を促進させる治療法です。NPWTの適応としては、「既存の治療に奏効しない、あるいは奏効しないと考えられる難治性創傷」であります。禁忌としては「悪性腫瘍がある創傷や瘻孔」、「血管吻合部位」、「主要な神経や血管の露出部位」、「十分な壊死組織の除去ができていない創傷」とされており頭頸部癌術後の創傷には使用しにくい印象がありますが、その効果は高く形成外科領域からは多くの報告がなされています。NPWTは2010年に局所陰圧閉鎖処置として保険収載されました。今回は当センターで施行した頭頸部癌術後に対するNPWTを使用した患者さんについて、治療期間やその効果などを検討します。</p> <p><b>研究期間</b></p> <p>「医学部 人を対象とする研究などに関する倫理委員会」承認後、昭和大学病院長の研究実施許可を得てから2019年8月31日</p>	
<p><b>3. 研究に用いる試料・情報の種類</b></p> <p>診療記録より治療内容（創部の状態、術後経過および術後からNPWT開始までに要した日数、NPWTの使用期間、創部の写真）、患者背景（年齢、性別、原発部位、TNM分類、施行術式）</p>	
<p><b>4. お問い合わせ先</b></p> <p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。</p> <p>ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p> <p>また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも</p>	

患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学 頭頸部腫瘍センター

氏名：櫛橋 幸民

住所：東京都品川区旗の台 1-5-8

電話：03-3784-8563

所属：昭和大学 頭頸部腫瘍センター 研究責任者：櫛橋 幸民